

岐阜県図書館協会

# 会 報

No. 37

平成21年3月

事務局

〒500-8368

岐阜市宇佐4-2-1

岐阜県図書館

電話(058)275-5111

## 岐阜県大学図書館協議会の活動

岐阜県大学図書館協議会会長 小森成一

岐阜県大学図書館協議会（以下、「協議会」という。）は、岐阜県内の大学図書館の振興を図るとともに、会員館職員の資質の向上と会員館相互の親睦を期することを目的として昭和46年に発足しました。

協議会の会員館数は平成21年2月現在17館（ ）であり、協議会ではその設立目的を達成するために運営委員会、総会、研修会（隔年で実地視察研修）を実施しています。言うまでもなく大学図書館は、大学本来の目的である高等教育と学術研究活動を支える重要な学術情報基盤であり、大学にとっては必要不可欠な機能を持った施設です。しかし、各大学図書館の業務運営は必ずしも順風満帆ではありません。

文部科学省が、全国の国公私立大学図書館を対象として毎年実施している「学術情報基盤実態調査」でも明らかなように、大きな課題としては「専門性を有する人材の養成、確保」、「外国雑誌電子ジャーナル購入に係る経費の確保」、「資料収蔵スペースの狭隘化への対応」といったところで各大学図書館は概ね共通した課題を抱えています。こうした課題への対応として、大学図書館間の連携は有効な方策であり、協議会の役割や期待は大きなものとなっています。また、各大学では教育、研究とともに地域社会との関わりが大きな使命となっており、大学図書館も積極的に社会と連携することが大学の目標達成の重要な活動と期待されています。

こうした中で協議会は、大学図書館間の更なる連携はもとより、岐阜県図書館協会を通じた幅広い連携により、その活動を充実、発展させ、地域の活性化や社会貢献にも資するものとなるよう今後も努めていきたいと考えています。



【実地視察研修】  
「国際児童文学館」ほか(平成19年度)

：岐阜県大学図書館協議会会員館

朝日大学、岐阜医療科学大学・岐阜医療技術短期大学、岐阜経済大学、岐阜県立看護大学、岐阜工業高等専門学校、岐阜聖徳学園大学、岐阜女子大学、岐阜市立女子短期大学、岐阜大学、岐阜薬科大学、正眼短期大学、情報科学芸術大学院大学、中京学院大学、中京短期大学、中部学院大学・中部学院大学短期大学部、東海学院大学・東海学院大学短期大学部、中日本自動車短期大学（以上、五十音順）

## 岐阜県公共図書館協議会活動報告

相互協力委員会では「図書館活動の評価」をテーマに活動を進めた。各加盟館で自館の図書館活動をチェックしたり、各地区意見交換会を開催したりするなど、県内公共図書館の課題を探る試みを行っている。

研修会は、「地域住民に役立つ図書館運営」をテーマに館長研修会を実施したほか、「資料保存と補修」「多文化サービス」に関する研修会などを共催で行った。

### 《県内公共図書館の動き》

#### 新図書館について

平成 20 年 4 月、加茂郡白川町的美濃白川楽集館が、条例改正により公民館図書室から図書館となった。これによって、県内の図書館設置市町は 34、図書館設置率は 81%となった。

現在、飛騨市図書館が平成 21 年 7 月の開館に向けて準備を進めている。また、岐阜市は岐阜大学医学部跡地に整備予定の図書館の在り方を協議する「図書館機能等検討委員会」を昨年 5 月に組織した。

また、高山市が昨年 3 月にすべての分室を分館としたほか、下呂市も 6 月に条例改正を行い、下呂・金山の図書室を分館に位置づけた。

#### ネットワーク化の動き

市町村合併後に広域化した自治体内におけるネットワークづくりが新たに下呂市と中津川市で行われた。下呂市は図書館・公民館図書室を電算化して WebOPAC を公開、インターネット予約を開始した。また、県内では初となるリライトカードを導入している。中津川市は自動車文庫廃止の代替として、公民館図書室へ週 1 回の配本を実施、インターネット予約の受付も開始した。

この他、羽島市立図書館でインターネット予約、北方町・美濃加茂市では携帯電話での予約が可能となった。

#### 岐阜県図書館について

県図書館では、ホームページでの情報発信として、パスファインダの公開や新着図書情報の RSS 配信、ケータイサイトのリニューアル等を実施した。また、図書館について利用者により知ってもらうために、雑誌に特化した図書館書庫ツアーの開催や、本の修理を担当しているサポーターの活動紹介等を行った。

(岐阜県公共図書館協議会事務局)

## 岐阜県公民館連合会活動報告

岐阜県公民館連合会では昨年の 9 月 25～26 日の二日間に亘って、長良川国際会議場を主会場に、第 46 回東海北陸公民館大会を開催いたしました。

### 大会テーマ

現代的課題にこたえる社会教育のあり方

～「ふれあい、よりあい、はなしあい」の

公民館活動を求めて～

参加者数：東海北陸 6 県から、1,253 名

主な内容

・記念講演：講師・岐阜県教育委員会

教育長 松川禮子氏

演題「学校で学ぶこと、社会で学ぶこと」

・基調提案：岐阜県の主張

下記の合同開催・分科会のあり方について

・分科会(3分科会・6分散会)

本大会の特徴

・公民館と社会教育委員の合同開催

両団体はかねてから深く連携すべきであると言われておりましたが、いざ大会となるとなかなか合同開催に踏み切れなかったのが現状です。それを岐阜県では(東陸公民館と岐阜県社教というやや変則的な連携ですが)思い切って合同開催に踏み切りました。これにより分散会では公民館の 2 発表に加え、社教も 1 発表を行い、高い評価をいただきました。

・分科会のあり方

分科会は本来専門的な領域に分類して行うものですが、今回は公民館活動の総合性に配慮し、「公民館運営」「住民の自主活動の場」「地域づくりの拠点」の 3 観点で分類しました。これにより公民館の活動がより総合的に、さらに地域に密着した公民館としてのあり方が追求できました。

今後の岐阜県の方向づけ

社教との連携を 1 年で終わることなく、21 年度以降も両団体の県大会を合同で開催いたします。大会の名称も「第 1 回岐阜県社会教育推進大会」とし、公・社の連携をさらに深めて参ります。

図書館の機能

各公民館にはささやかながら図書室を備えておりますが、市町村立の立派な図書館が整備されている今日、予算・規模とも縮小の方向にあるのは否めません。しかし社会教育の一環として図書館・児童館・博物館等との連携を深めていくことも社教との連携同様、重要な課題であると受け止めております。

(岐阜県公民館連合会事務局)

## 岐阜県学校図書館協議会活動報告

岐阜県学校図書館協議会では、下記のように学校図書館の充実発展を図るための研究会や研修会と、児童生徒の読書の振興を図るための各種コンクールを行っている。

研究会、研修会

### (1)第1回研究会及び代表者会

(5月22日 岐阜市)

活動計画、予算、研究大会の計画などの協議や連絡をすると共に、県教育委員会学校支援課課長補佐 片山誠吾先生より「学校図書館教育の充実に向けて」という題で講話をいただいた。県下各地区から理事や代表者が集い、子どもの読書や図書館教育の推進について共通理解を図ることができた。

### (2)夏季ゼミナール (8月20日 岐阜市)

約40名の参加者があった。元関市立倉知小学校教頭の高井はつ代先生より、「読書感想文の指導にあたって」という題で講演していただいた。図書主任として、教頭先生として、県読書感想文コンクールの審査員として、長年ご活躍されてきた先生の情熱を感じると共に、図書館教育をどう推進していくのか、明日から何をやればいいのかを、長年の経験を元にお話しいただいた。

### (3)第2回研究会及び代表者会

(2月24日 岐阜市)

研究会や各種コンクールの報告を行うと共に、このたび、本を出版された岐阜市立長森中学校教諭 大西隆博先生に「本が出版されるまで・・・心をこめたメッセージの発信」という演題で講演をしていただいた。原稿が本として出版され、私たちの手元に届くまでに、どのような工程を経ているのか、普段なかなか知ることのできないことを話していただき、大変興味深い内容だった。

各種コンクール

#### (1)図書館だよりコンクール(高等学校のみ)

#### (2)読書感想文コンクール

(小学校、中学校、高等学校、在学勤労青少年)

#### (3)読書感想画コンクール

(小学校、中学校、高等学校)

#### (4)図書館利用作文コンクール(小学校、中学校)

#### (5)読書ゆうびんコンテスト

(小学校、中学校、高等学校、一般)

それぞれに多数の参加があり、すばらしい作品が集まった。今後もこうした事業を通して、読書活動がますます豊かに発展することを願っている。

(岐阜県学校図書館協議会事務局)

## 図書館活動研究大会



講演の様子

利用者ニーズが多様化し、様々な質の高いサービスが求められる一方で、それらを保障する財源不足が指摘される今日において、「利用者のための図書館のあり方」について深く論議を交わし、「利用者のための図書館づくり」への取組が一層力強くなることを願って今大会を開催した。

大会テーマ

「今こそ論議を！利用者のための図書館のあり方」

講演テーマ

「今だからこそ、『図書館のめざすもの』」

講師 竹内愼氏(図書館情報大学名誉教授)

分科会テーマ「実務担当者が考える連携のあり方」

講演の感想

「『目に見えるものばかりを求めて、そうでないものを軽んじる風潮がある』とありました。図書館の仕事をしていく上で、自分の仕事の仕方においても、時間をかけ基本を積み重ねることが大切と感じました。」

「図書館の基本理念について、改めて考えさせられました。特に学校図書館の果たす役割については、目からウロコが落ちる思いでした。先生がお話しされたように将来的に長い目で考えたサービスを行っていきたいと感じました。」

大会報告(分科会での話題から)

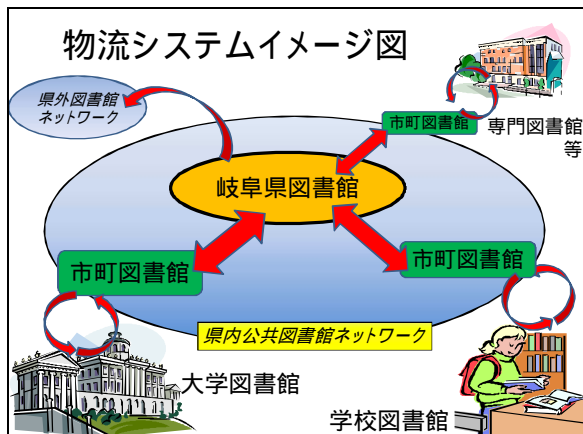
1. 「館種を越えた連携の必要性」は各加盟館の共通認識として定着
  2. 「分科会：各館種からの活動報告と少人数グループでの意見交流」の形の研修は大変有効
  3. 物流ネットワークと貸出ルール整備の要望
  4. 小中学校との連携の難しさの存在、その事情を理解した上での連携協力の必要性
  5. 専門図書館自身のさらなるPRの必要性
  6. 障がい者サービスのあり方について今後岐図協でも話題にしていくことの必要性
- これらについては相互協力部会で検討を進める。

(岐阜県図書館協会事務局)

相互協力部会活動報告  
～歩みはじめた図書館の連携協力～

今年度の主な取り組みは、大学図書館とその地域の市町図書館との連携を促進するため、互いに協議の場を設けるよう呼びかけたことである。対象となるほとんどの図書館の間で協議が行われ、連携のあり方について、課題と可能性が明らかになった。中でも、連携の中心となる館種を越えた相互貸借については、新たな方策も見いだすことができた。

例えば、現在県図書館と市町図書館の間で週1回運行している定期配送便について、各市町図書館が地域の図書館としての窓口となることで、大学図書館、学校図書館、専門図書館などの館種を越えた物流ネットワークシステムの構築が比較的容易に実現できることである。(下図)



その際には、窓口となる市町図書館の理解はもちろん、その地域の大学、学校、専門図書館との協力が必須であり、運用にあたっては、一定のルールづくりが必要となる。

部会では、円滑な相互貸借のためには、そのよりどころとなる指針「岐阜県図書館協会相互貸借指針」(仮称)の作成が必要と考え、その作成に向けて検討作業を行っている。今後は各方面でのご理解をいただきながら、物流システムの整備と併せて、館種を越えた連携協力の歩みがより進展するよう、各課題について具体的な提案ができればと考えている。

<会議の記録>

4回の会議を開催。(7/10、10/23、12/16、2/4)  
特に第2回は内藤記念くすり博物館附属図書館を会場とし、他館種の現状を知る一助とした。  
(相互協力部会)

平成20年度 事業報告

- 1, 図書館活動研究大会(110人参加)  
平成20年11月21日(金)岐阜県図書館
- 2, 図書館実務講習会
  - (1) 岐阜県学校図書館協議会夏季ゼミナール  
平成20年8月20日(水)(40人参加)  
岐阜市南部コミュニティセンター  
講演「読書感想文指導から見えること」  
講師 高井はつ代 (元倉知小学校教頭)  
講演「利用記録コンクールに参加してみませんか」  
講師 小里ふみ子 (揖斐小学校教諭)
  - (2) 図書館職員研修(初任者)(104人参加)  
平成20年6月5日(木)6日(金)  
岐阜県図書館  
講義  
「図書館の役割～利用者の立場からみた図書館～」  
講師 多治見市図書館長 後藤義博  
講義「図書館の仕事1 カウンターサービス」  
講師 岐阜県図書館 酒向みゆき  
講義「図書館の仕事2 図書館の連携」  
講師 岐阜県図書館 坪井敏二  
講義「図書館の仕事3 児童サービス」  
講師 岐阜県図書館 近藤由季江  
講義「図書館の仕事4 図書の分類」  
講師 岐阜県図書館 和田聖子  
講義「図書館の仕事5 図書の目録」  
講師 岐阜県図書館 石井芳枝  
交流「仕事の疑問に答えます」  
岐阜大学図書館 中齋二三博  
岐阜市立三里小学校 中島優子  
岐阜県議会図書室 松原直美  
岐阜県図書館 木戸和子  
岐阜県図書館 坪井敏二
- 3, 資料発行  
「会報」(37号) 平成21年3月
- 4, 会議
 

理事会		6月13日(金)
幹事会	第1回	5月8日(木)
	第2回	3月6日(金)
相互協力部会	第1回	7月10日(木)
	第2回	10月23日(木)
	第3回	12月16日(火)
	第4回	2月4日(水)
- 5, その他  
「岐阜県の図書館 33」冊子としての発行を取り止め、WEB版として岐図協HPに掲載  
(岐阜県図書館協会事務局)